

口永良部島の火山活動解説資料（平成 23 年 2 月）

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。ただし、火口内では引き続き噴気がみられており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要です。

平成 21 年 10 月 30 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 2 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2）

新岳の噴煙活動は低調で、白色の噴煙が火口縁上概ね 100m（最高高度は 400m）で経過しました。

・地震や微動の発生状況（図 2）

火山性地震の月回数は 69 回（1 月：63 回）で、少ない状態で経過しました。火山性地震の震源はこれまでと同様、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。

火山性微動の月回数は 85 回（1 月：75 回）でした。

・地殻変動の状況（図 2、図 3）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図 1 口永良部島 噴煙の状況（2 月 25 日、本村西遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 3 月分）は平成 23 年 4 月 8 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

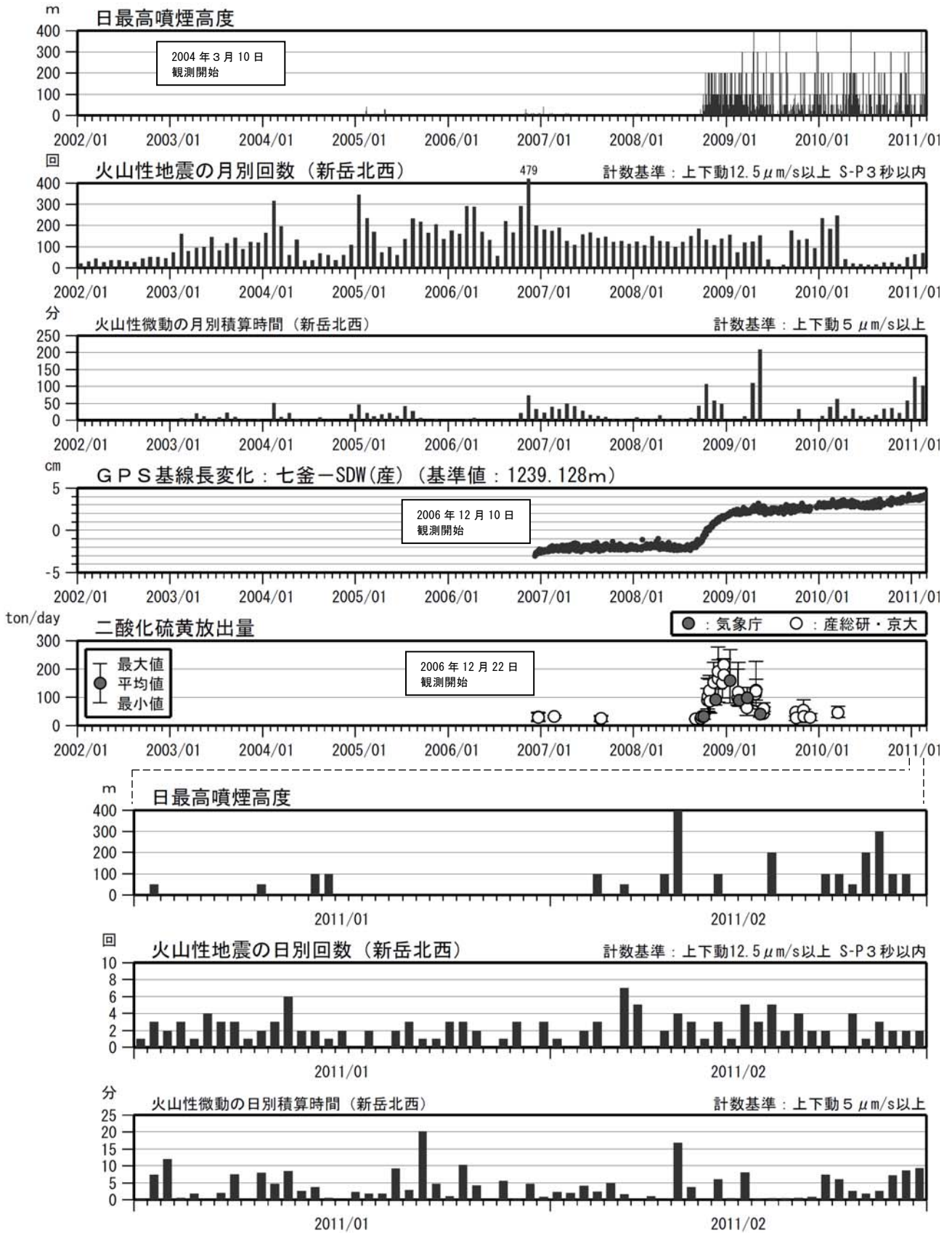


図 2※ 口永良部島 火山活動経過図（2002 年 1 月～2011 年 2 月）

< 2 月の状況 >

- ・噴煙活動は低調で、噴煙の高さは火口縁上概ね 100m（最高高度は 400m）で経過しました。
- ・火山性地震の月回数は 69 回（1 月：63 回）で、少ない状態で経過しました。
- ・火山性微動の月回数は 85 回（1 月：75 回）でした。

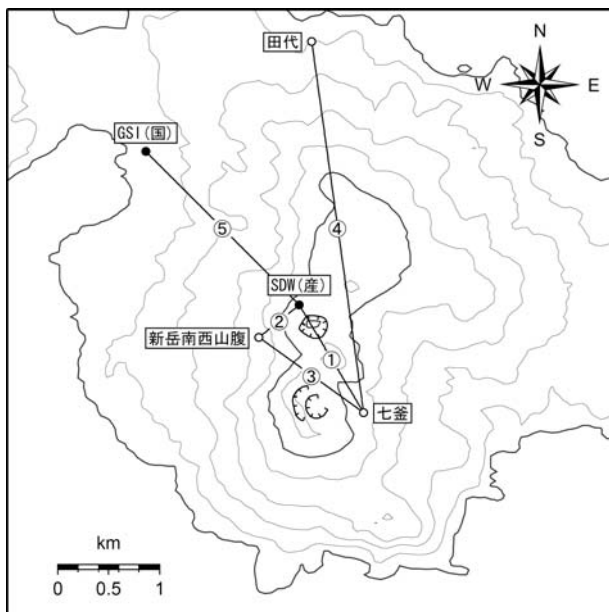
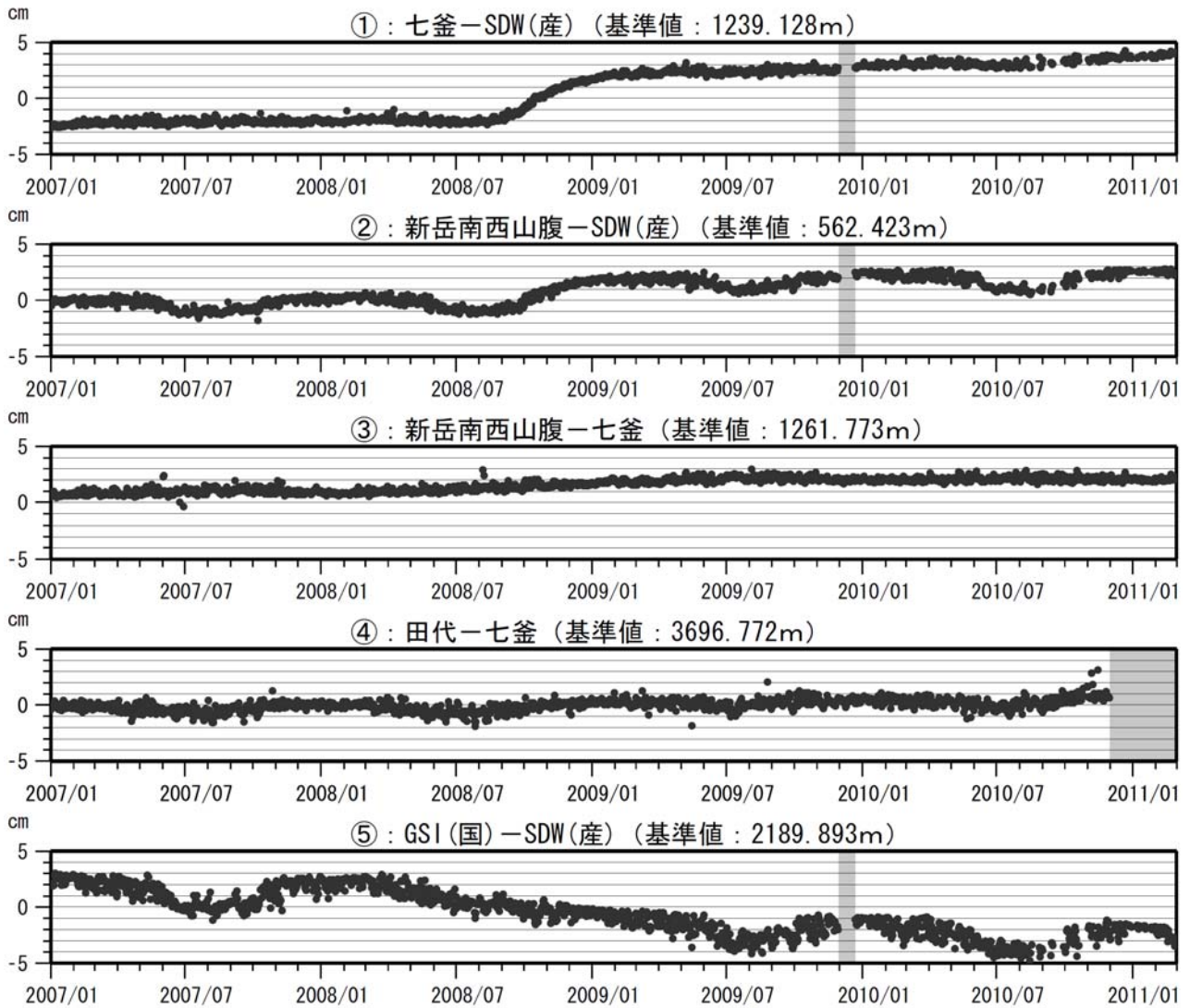


図3※ 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化 (2007 年 1 月～2011 年 2 月)
GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。
灰色部分は観測点障害のため欠測。

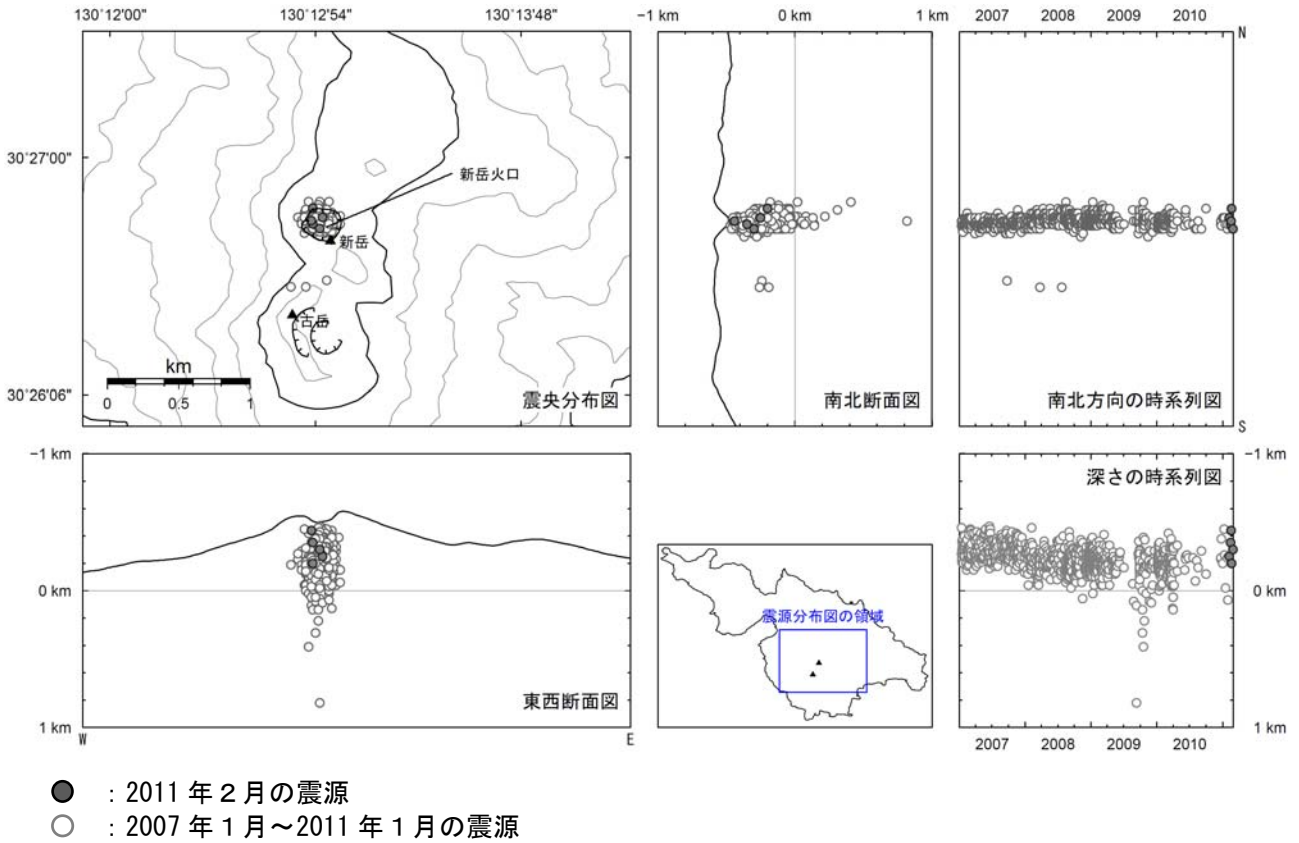


図 4※ 口永良部島 震源分布図（2007 年 1 月～2011 年 2 月）
＜ 2 月の状況＞

火山性地震の震源はこれまでと同様、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。

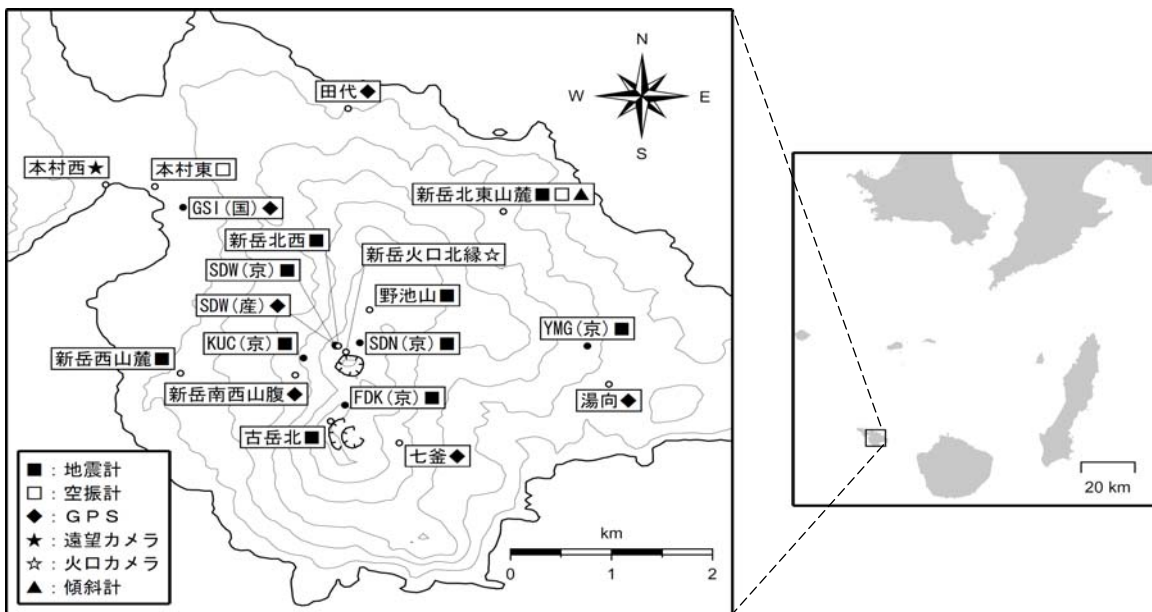


図 5 口永良部島 観測点配置図

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。